

〈実践事例〉 小学6年 学級活動

私の個性って何だろう

学習日時 平成20年1月25日 5校時
場 所 コンピュータ室
指 導 者 担任

1 題材について

題材名 私の個性って何だろう

補助資料 『心のノート』 文部科学省

ねらい 学級の友達の特徴を考えさせる活動を通して個性の意味を考えさせるとともに、自分の個性を多面的に理解する方法や、個性を生かして生活することの意義について理解を深める。

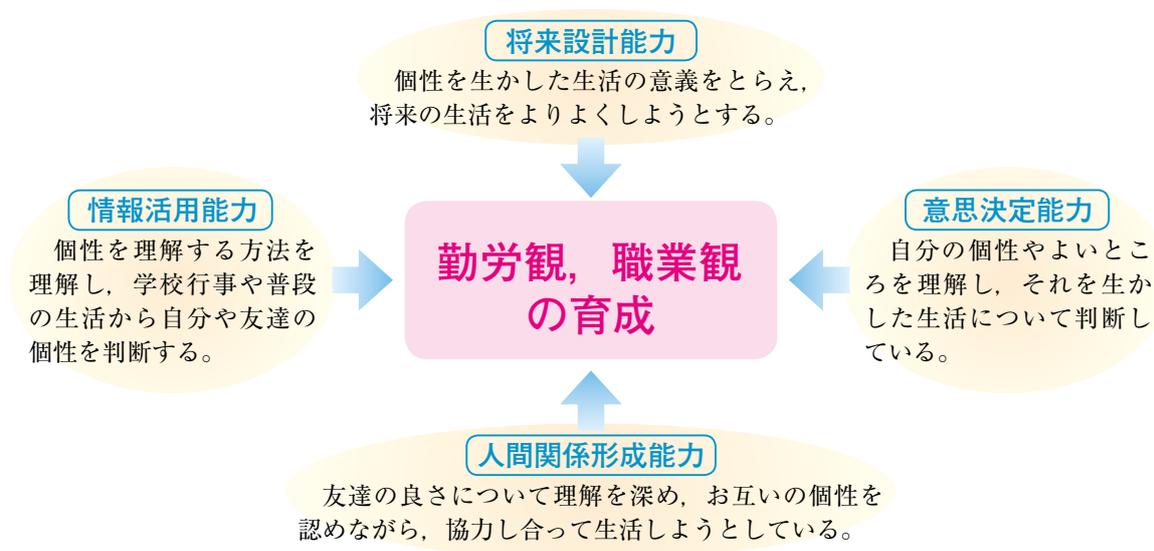
2 題材設定の理由

6年生は、さまざまな行事でリーダーシップを発揮する機会が多く、個性を発揮している。しかし、個性という言葉の意味や個性を生かした生活の意義に関する理解が不十分である。キャリア教育で中核として求めている4つの能力の中で、特に人間関係形成能力や将来設計能力を高めるためにも、自己理解や他者理解を深めることは重要と考える。そこで、個性を発揮できるような学校行事が豊富なこの時期に、12歳という発達段階を踏まえて自己理解を深めるとともに個性を生かした生活の仕方を理解させたいと考え、この題材を設定した。

3 題材のねらい

- ・友達の特徴をとらえる活動を通して、個性の意味について理解させる。
- ・個性を生かした生活の意義を理解させるとともに、自分の生活の仕方について具体的に考えることができるようにする。

4 題材を通して育てたい能力・態度



5 題材の展開

(1) 事前の活動

- ・ワークシートを配布し、学級の友達の特徴を考えてまとめさせる。

(2) 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	資料等
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの集計結果の掲示を見ながら、感じたことを自由に発言する。 ○教師の説明を聞いて、本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">私の個性って何だろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚でとらえやすいサイズの円グラフにして提示する。 ○自由に発言させながら個性の意味について確認させ、本時の課題を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・事前調査の結果をまとめた掲示物 ・学習課題の掲示
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の提示する特徴から、学級の誰かを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・Aくん 特徴を書く (例) いつも元気にあいさつする。積極的に発表する。 ・Bさん 特徴を書く ○心のノートを見ながら、個性に関する教師の説明を聞く。 ○個性を生かして生活するとは具体的にどのようなことか、自分の考えをコンピュータ上の掲示板を用いて発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表するときには、「○○さんだと思います。それは…だからです。」というように理由も発表させる。 ○提示する児童には、特徴を言い当てられても精神的な苦痛を感じさせないように配慮する。 ○個性の意味と人には皆違った特徴があり、それを認めながら協力して生活していることに気付かせる。 ○個性を生かして生活するとはどのようなことか、自分の考えを掲示板に書き込み、自由に意見交換させながら理解を深める。 ○なかなか書き込めない児童には、個性を生かして生活している実例を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題とした児童の特徴をとらえた画像 ・心のノート ・イントラネット ・掲示板機能のあるソフトウェア
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○個性を生かす意義や自分の在り方について考えたことを心のノートにまとめる。 ○自分の個性を発揮する場面についてワークシートにまとめ、学習の自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○掲示板の書き込みを生かして個性を生かした生活について補足し、理解したことを心のノートにまとめさせる。 ○これからの生活について具体的に考えさせ、ワークシートにまとめさせた上で自己評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心のノート ・ワークシート

(3) 事後の活動と指導

- ・三世代ふれあい交流会などの学校行事や日頃の生活で個性を発揮している場面をとらえ、声をかけたり日記に記入したりする。
- ・心のノートや行事の後の活動記録などに、理解できた個性や適性について自分の言葉でまとめさせる。

※ 本例は、平成20年に作成されたものである。

5 キャリア教育を生かして効果を上げた学校での取組

<事例1> A小学校

学力向上プロジェクトの効果を高めたキャリア教育

学んだことを生活や将来につなげるキャリア教育の視点を生かして授業改善に取り組み、「分かる授業・確かな学力の保障」の実現を図る

【学校の状況】

- 児童数約101人（7学級）
- 都市から離れた山間部にある、各学年単学級の小規模な小学校である。豊かな田園地帯に囲まれた自然の豊かな環境で、比較のおとなしい児童が多い。
- 基礎的・基本的な能力は身に付いているが、それらを基に思考力・判断力・表現力を活用して問題を解決する能力を伸ばす必要がある。また、学級は20名程度という学習環境を最大限に生かし、個々の能力をよりよく伸ばす指導法の研修を深めようと考えた。

【キャリア教育のねらい】

- 算数を中心に学力向上を図る取組にキャリア教育の視点を積極的に取り入れ、授業改善についての研修に取り組む。
- 学力診断のためのテストや全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、学習の目的意識を高めるために学年始めや単元の最初におけるガイダンスの工夫や課題を踏まえた活用型の指導法の改善を図る。

(p.81のガイダンスの資料を参照)

授業改善にキャリア教育の視点を生かして学力向上につなぐ

(1) A小学校のキャリア教育の特色

自校の課題について全教職員で共通理解を図り、具体的な授業改善にキャリア教育の視点を生かしたA小学校の実践では、キャリア教育を充実させ授業の改善や家庭学習の見直しを図ることにより、学力が向上したという成果が報告されている。

< A小学校の研究報告書から抜粋 >

1 これまで行った学力向上のための主な研修内容の確認

(1) キャリア教育の視点で考える学習改善

- ①「学ぶ目的」の明確化：児童に学習の目的や活用の仕方を解説し、学習意欲を高めた。
- ②テオリア（原理・原則・概念）＝「基礎・基本」の学習から、それが導き出された過程を探究する活動に発展させ、学習したことを活用する方法を見いだす学習を設定した。

(2) 「学び方」の基本を見直す指導方法の改善

- ①ある教科を例とした学び方のプロセスを確認し、各教科ごとの学習プロセスの見直しを図った。
- ②『学力を高めるサイクル』の共有を図るとともに、学力診断のためのテスト等の分析と検討の成果を生かして授業の具体的な見直しを進めた。

(3) 小学校学習指導要領の改訂から考える指導方法の改善

- ①算数の目標は「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」となっている。この解釈について研修会を行った。
- ②学力の要素の明示では次のように解説されていることを確認した。

基礎的・基本的な知識・技能の習得→知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の習得→（学習活動を支える）学習意欲の高揚

- ③ P I S A型の能力の育成が社会から要請されていることを確認した。
- (4) 全国学力・学習状況調査の結果から本校の課題を確認
 - ①主として「活用」に関する問題に課題がみられる。
 - ②数学的な思考力・判断力の育成に課題がある。

2 本年度から設定した「校内研究目標」に基づいた「活用型」の確認

- ①教科で学んだ内容を日常生活で活かし、深める。
- ②1つの教科で学んだことを他の教科で活かし、横断的な指導により深める。
- ③教科で学んだ内容を他の単元などで活かし、深める。

3 算数学力向上プロジェクトで取り組んだ内容

(1) 平成〇年度全国学力・学習状況調査結果を受けて改善した点

- ①家庭学習の時間が全国平均に満たない。また、漢字能力の課題や不注意による計算ミスがあるので、宿題の内容を工夫し、家庭学習を自主的に行う習慣を身に付けさせようと取り組んだ。
- ②主として活用の調査で、国語の文章の読み取りや数学的な考え方に課題がみられた。そこで、国語だけでなく算数や社会科でも読み取り能力を高める学習を設定するとともに、練り上げ学習などを取り入れて思考力を高める時間を取った。

(2) 算数の学力向上策で改善した点（本校アンケートの集約結果から）

- ①日常生活の中から課題を見付けるなど、生活との関連性を深めたり他教科との連携を深めたりしている。
- ②一人一人の考える時間を確保するとともに、グループでの学び合い学習を設定している。
- ③将来の生活に生かす方法に関心を向けさせ、学習に対する目的意識を高める工夫をした。
- ④少人数指導やT Tを取り入れ、個別指導に力を入れている。

(2) 成果

- キャリア教育に関する理解が深まり、学習の目的意識を高める指導法の改善がなされたことで、学習に対する児童の積極性が高まった。また、学習したことの活用法を考えさせる時間を取り入れることで、児童の思考力や判断力も高まり、学んだ知識や技能を生活や他の学習で活用する力が高まった。
- 全教員に学力を向上させるための課題意識が強くなり、児童の実態を踏まえて指導法の改善を進めたり指導計画の見直しをしたりする意欲が高まった。
- 教務主任や教頭がT Tで協力し、学習が遅れがちな児童に自信をもたせるような指導をしたほか、学級担任の授業にもメリハリができた。その成果として、学力不振の児童の指導を手分けしてできるようになり、授業嫌いの児童が減少した。
- 学習の必要性を感じるようになり、各家庭においても計画的・自主的に学習する姿勢が高まった。
- 校内研修において積極的に取り組む体制が確立し、ワークショップ型などで様々な意見を参考にしながら熟考し、授業改善の視点を明確にする効果があった。

<事例2> B小学校

キャリア教育を通して校内研修の活性化を図る

キャリア教育を中核にすえた授業改善に取り組み、職員の目的意識の高揚と校内研修の充実を図る

【学校の状況】

- 児童数約 540人（20学級）
- 各学年3学級と中規模の学校である。学区は、都市部に位置し、交通網や商業地の発展した地域にある。また、近隣に多くの児童が同じ中学校に進学する小学校が3校有り、小学校間の連携もとれている。児童は、はつらつとした元気な子どもが多い。
- 校内研修を充実させて、教育課程の見直しを図ることを目標としていたので、キャリア教育を積極的に取り入れ、教育活動全体を見直すこととした。

【キャリア教育のねらい】

- 様々な領域からキャリア教育に取り組むことにより、教材開発の充実の視点から校内研修の活性化を図る。
- 教員がそれぞれの校務分掌におけるキャリア教育の教材開発に取り組む、教育課程全体の関連性を確認するとともに横断的な指導の充実を図る。



キャリア教育を生かした授業改善と学力を高めるための教育課程の工夫

(1) B小学校のキャリア教育の特色

B小学校では、キャリア教育を中核にすえた校内研修を行った結果、小学校学習指導要領の内容を踏まえた基礎的・基本的な内容の充実が図られ、授業改善につながった。キャリア教育の視点は、全ての教育活動の活性化・充実につながっている。



職員研修

＜校内研修の年間計画＞

時 期	内 容	成 果
4月 ＜職員会議＞	○キャリア教育の全体計画・年間指導計画の確認 ○平成〇〇年度のキャリア教育推進の方向性の確認	○全校で、キャリア教育の必要性や意義、年間の見通しを確認することができた。
5月 ＜職員研修＞	○キャリア教育の視点で考えた授業の改善方法の研修 ○「活用」に視点を当てた小学校の研究テーマと研究の方向性について	○小学校学習指導要領の各教科の解説に示されているように、基礎・基本を踏まえた「活用」の能力を育成することの重要性を確認できた。 ○各自の研究の方向性を考える出発点とすることができた。
6月 ＜授業研究＞ ＜職員研修＞	○キャリア教育の提案授業（第5学年）「学力を高める学習方法とは」 ○キャリア教育の概念とこれからの方向性について	○学力を伸ばすことも進路希望を叶えるために重要であることを再確認できた。 ○キャリア教育の指導案の形式や求める能力について確認できた。
8月～9月 12月～2月 ＜職員研修＞	○「道徳教育・道徳の時間」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」の全体計画・年間指導計画の作成	○キャリア教育の全体計画を基盤として、各指導計画の関連性を図ることができた。「学習指導」と「生徒指導」、「進路指導」の関連を図るというキャリア教育の考え方を生かすことができた。
1月 ＜授業研究＞	○中学校との接続をテーマに6年生の授業研究を実施	○小・中の接続のためのキャリア教育の必要性と工夫点を確認できた。

(2) 成果

- 系統的にキャリア教育の研修を設定することで、校内研修の関連性を図ることにつながり、一つ一つの研修内容を充実させることができた。
- キャリア教育の意義や生かし方に関する理解が深まり、すべての教育活動でキャリア教育を生かそうとする意識が高まった。
- 教育課程全体を系統的に見直し、横断的な指導ができる年間指導計画の作成や活用型の指導法の研究を深める機会になった。



(3) 活用した資料

月		学年部会	授業研究部	環境研究部
4	推進委員会			
5	全体研修会 学年部会 研究部会	●本年度の研修・研究の方向性についての提案・検討 ○研究内容の検討 ○研究内容の検討		
6	全体研修会	●研究内容と各部会の取組の確認		
	授業研究部 学年部会	すらすらタイムの 計画づくり	○指導内容の検討と 再確認	
7	環境研究部			○環境・掲示物の見 直し ↓
	推進委員会 全体研修会	●各部会の提案の取りまとめ ●各部会の提案内容の検討・確認		↓ ↓
8	授業研究部 学年部会	○授業単元・題材の決定と指導内容の検討		↓ ↓
	全体研修会	●授業研究に向けての提案		
9 10	授業研究部 学年部会 環境研究部	○授業研究の内容の決定と学習指導案の作成 ↓ ↓		○環境・掲示物の作 成作業 ↓ ↓ ↓
	授業研究① 授業研究②	↓ ↓		↓ ↓
11	授業研究部 学年部会	○学習指導案の作成・検討 ○準備物の作成		↓ ↓
	推進委員会 全体研修会	●準備内容の確認 ●授業研究及び研究協議の運営について		
	11月授業研究★町指定研究発表会★要請訪問			
12	推進委員会 全体研修会	●研究成果の確認・今後の取組について ●今後の取組について提案・検討		
1 2	授業研究部 学年部会 環境研究部	○授業研究のまとめと課題の検討		○課題の検討
3	推進委員会 全体研修会	●研究のまとめと反省, 次年度への取組 (及び課題を解決する実践)		

『力を伸ばすための学習って？』

(5年生学級活動におけるキャリア教育)

学習日時 平成20年6月19日 6校時

実施学級 5年生

指導者 ○○ ○○

研究テーマ

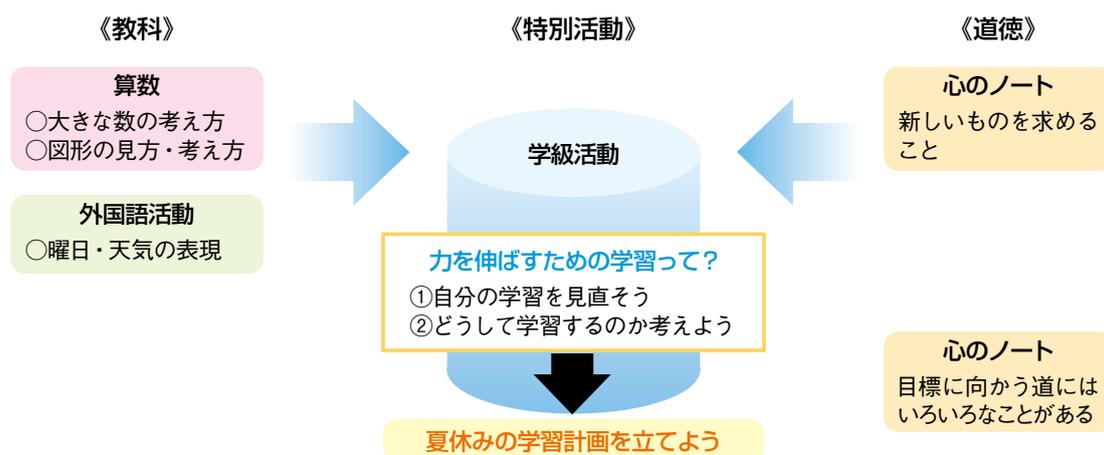
「わかる・できる・活かす」力を高めるためのキャリア教育の展開の工夫と教育課程への位置付けを図る

1 題材設定の理由

B小学校の5年生の児童は素直で努力家が多く、担任としては学習に対する目的意識を高め、更に意欲を向上させたいと考えている。また、平成20年1月17日に出された『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』の（6）学習意欲の向上や学習習慣の確立においては、「第三は、観察・実験やレポートの作成、論述など体験的な学習、知識・技能を活用する学習や勤労観・職業観を育てるためのキャリア教育などを通じ、子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもったり、学ぶ意義を認識したりすることが必要である。」と記されている。

こうしたことを踏まえて、学習の意義をできるだけ明確にし、目的意識をもって意欲的に学習に取り組もうとする態度を育成することや、具体的な努力の仕方を理解させることを学習のねらいとしている。

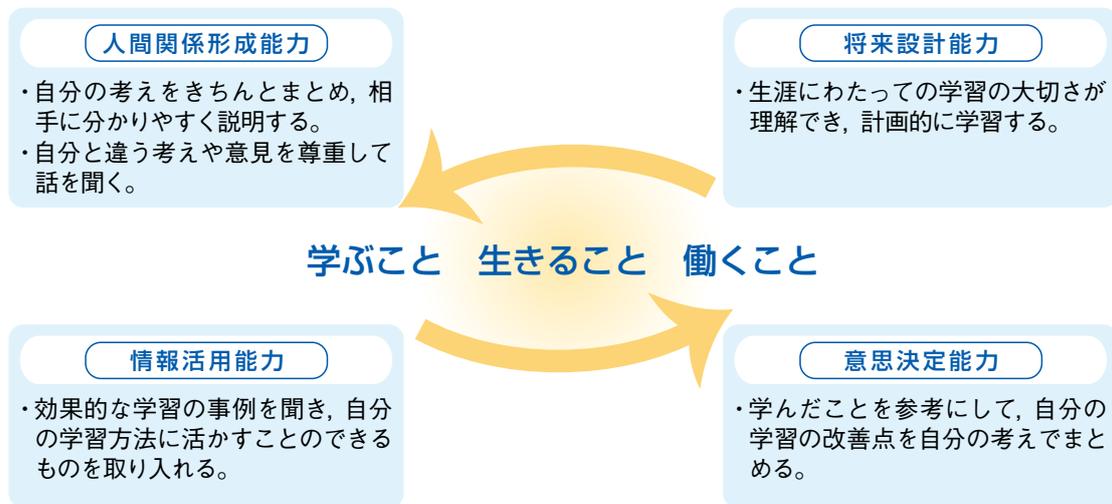
2 題材の系統



3 主な目標

- (1) 日頃の学習の様子を評価するとともに、自分の学習の仕方に関する課題を確認する。
- (2) 学習の目的は何かを考え、将来の夢を叶えるために必要なことや豊かな生活をするこの意味をとらえさせる。

4 題材を通して育てたい能力・態度（学習目標を達成するための評価の観点）



5 題材の展開

(1) 事前の活動と指導

- 算数や外国語の勉強が得意になるには、どんな工夫があるのか確認する。
 - ・授業中に声をかけたり休み時間に話を聞いたりする。
- 湯川秀樹博士やマリー・キュリーの発見についての学習を参考に、ノートにメモをとることや「不思議だな」と興味・関心をもつことの大切さを理解させる。
- 「学習についての確認」を行い、5年生の傾向をつかむ。

(2) 本時の活動（学級活動，1時間扱い）

- 力を伸ばすための学習って？
 - ・各自の学習の様子について自己評価し、課題点を考える。
 - ・学力を伸ばした人の学習の様子について事例を基にまとめる。
 - ・自分の学習方法を改善するために必要なことを具体的に考える。

(3) 事後の活動と指導

- 学習計画を立てる。
 - ・学力を伸ばすためのポイントを考えながら、夏休みの計画を立てる。
- 授業の受け方を改善する。
 - ・自己評価を参考に、授業の受け方を見直す。

6 指導効果を高めるための工夫及び実践に当たっての留意点

- (1) 各教科の授業中に効果的なまとめ方をしているノートを紹介したり、基礎・基本を習得するための反復学習の仕方を助言したりする。
- (2) 他の小学校の学習の様子を参考にし、学習が得意な人の工夫の仕方などを情報収集してわかりやすく紹介できるようにする。
- (3) 児童一人一人の悩みや課題を記録・分析し、授業はもちろん、個別のキャリアカウンセリングやノート指導などに活用する。

7 本時の展開

	学習活動・内容	指導上の留意点	備考
導入	<p>力を伸ばすための学習って？</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習についての確認」を振り返って、それぞれの教科が得意だという意識のある人2名が、その理由を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入なのであまり長い話は避け、表を用いて児童が課題意識をもつことができるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習についての確認」をまとめた表
展開	<ul style="list-style-type: none"> 共通に課題意識の強い算数科の学習の仕方について自己評価し、どうすれば力を伸ばすことができるか3人グループで話し合い、用紙にまとめる。 グループの代表者が、まとめた用紙を黒板に貼り、発表する。 「力を伸ばすための学習の仕方」について、各自がわかったことをワークシートにまとめる。 他の小学校の児童の学習の仕方について、教師の説明を聞く。 分かったことで、自分の生活に生かすことのできそうな事例をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の定着度を生かして意図的にグループを編成し、各グループともできるだけ具体的な話し合いができるように支援する。 リーダーを中心にお互いの発表を肯定的な気持ちで聞くように注意し、自分の思っていることを自由に話せるように配慮する。 友達の見解を参考にさせながら、自分自身で理解できたことをまとめさせる。 まとめの不得意なAさん、Bさんには机間指導で助言する。 他県や近隣の小学校の例を挙げ、参考になるように分かりやすく説明する。 理解できたことで、自分の学習に取り入れることのできそうなことを具体的にまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班ごとの意見をまとめるA3版の用紙 ○サインペン ○ワークシート ○説明の補助資料
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 心のノートP30を見直して、ある分野について学力を伸ばした人の生き方を確認する。 心のノートP18、19を見ながら教師の話聞き、今後の自分の学習の仕方について、自分で努力しようと決めたことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 湯川秀樹博士やマリー・キュリーの発見についての学習を振り返らせ、メモやこだわりの大切さについて確認させる。さらに、心のノートで目標をもつことの意義やそれを達成するための道のりについて説明し、学ぶことの意義を理解させるとともに、一人一人に努力しようとする意欲をもたせる。また、今回の学習をこれからの生活に生かし、学習の仕方を改善するための決意をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心のノート ○ワークシート

※ 本例は、平成20年に作成されたものである。

<事例3> C小学校

6年間をかけて系統的に取り組むキャリア教育

異世代に学び同世代と学び合う体験学習を充実し、教科や道徳の時間・特別活動との内容関連と系統性を見直し授業改善に取り組む

【学校の状況】

- 児童数約250人（11学級）
- 地域に独居老人が多いことから行われてきた福祉活動を再編し、異世代から勤労観・職業感を学ぶ学習として位置付けている。
- 少人数授業習熟度別学習の充実を図り、基礎学力の向上を目指している。
- 体験学習に保護者を巻き込み、学校教育への関心や協力関係を高めている。
- 3年生以上の異学年地区別縦割り班活動を充実し、同世代のコミュニティー力の活性化を目指している。

【キャリア教育のねらい】

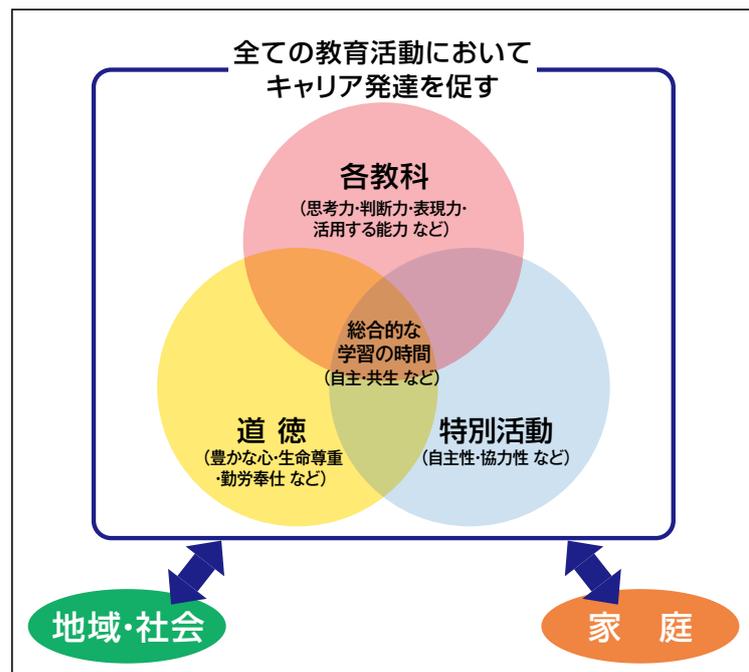
- 健やかな体と心を持ち、地域での交流を大切に生き生きと活動する子どもを育成する。
- 学習の目的を明確にもち、意欲的に学習するとともに、学んだことを生活に生かそうとする態度を育成する。
- 互いに相手のことを認め合い、にこにこ笑顔で協力し合うことのできる子どもを育成する。

6年間で系統的に学ぶ教育課程の工夫とキャリア教育プログラムの作成

(1) 全体計画の作成までの過程

これまで研究指定などで推進してきた道徳や総合的な学習の時間、習熟度別少人数指導の充実の取組は、それぞれに重点をおいて充実していくものであった。キャリア教育を推進するに当たり、その考え方を見直してそれぞれの学びが相互関連を図りながら生きる力をはぐくむという視点から、授業のねらいや教科の目標についての教員研修に取り組み、授業研究を重ねながら全体計画を形づくっていった。

一人一人の教員が研究教科などを中心にして授業研究に取り組むことで、キャリア教育の視点に基づいた授業とは、学んだことが子どもの生活やその後に活用されることであるという共通理解が生まれていった。その結果、学年の中での横断的な関連と学年間や各教科などの間で内容的な関連を図ることができた。それに伴い、放課後や空き時間に児童理解や教材研究についての自発的な情報交換が活発に行われるようになり、教員間で学び合い授業改善につなげる雰囲気が高めることができた。



<キャリア教育の全体計画のイメージ図>

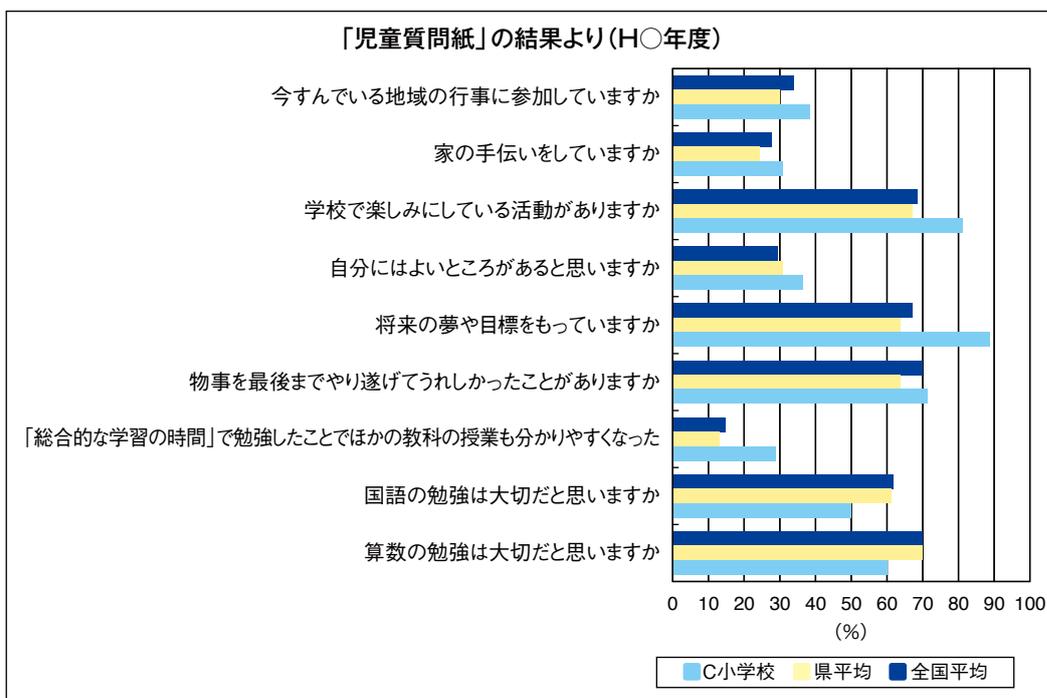
(2) 学年間の連携を図り、6年間の系統性をつくり上げる

授業研究に当たり、研究協議ではその授業の内容が各学年での学びにどのようにつながるのかを軸にして話し合うことにした。そうすることで、「何の学習で・どのような力を付けたいのか・そのための方法は何か」を考えることができ、特に総合的な学習の時間の各学年のねらいと活動内容が整理されていった。例えば低学年で学ぶ地域を教材化した生活科での学習を、素地となる学習として位置付けるなど、教育課程の再編に全員で取り組むことができた。このことは、各学年で育てたい能力を理解することにつながり、教員間の連携を深めていくという効果も生まれた。教科担任や主任の役割意識が高まることで、新しい企画が提案されるなど協力的な雰囲気の中でキャリア教育を推進していくことができるようになった。



それとともに、保護者や地域の人とも連携協力をもつ機会が増え、地域に開かれた学校の実現にもつながった。

下のグラフは、全国学力・学習状況調査の「児童質問紙」結果の一部である。キャリア教育を推進した成果として、周囲の大人と積極的にかかわろうとしたり、児童の自尊感情の高まりが見られたりするようになった。しかし反面、学習状況の結果では、基本的な知識の定着に課題があることが明確になった。これらの結果を学校評価の資料に加えて自己評価を行い、改善点を学校関係者評価委員会で表明するなど、PDCAサイクルを生かしてキャリア教育の全体計画に修正を加えた。



成果
課題

キャリア教育プログラムの系統性 (平成〇年度 C小学校)

総合的な学習の時間 (生活科では素地・関連学習)			教科指導	道徳特別活動	その他	
キャリア学習	〇〇学習	〇〇学習				
一年	<p>「『お手つだい名人』になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●できる喜び・役立つ自分への充実感を味わい、家族にはめてもらえる「快」の体験が勤労意欲の基礎になる。 <p>「〇〇こうえんは わたしたちのたからもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然の四季の変化を楽しみ、そこに訪れる人たちと出会い、社会や自然への気付きを大切に豊かな感性を培う。 <p>家族に信頼をよせ、自分も役立つとする成長過程や周囲の変化に目を向けた記録をつづるポートフォリオ作成</p>	<p>勤労・役立つことの喜びを体感する場</p> <p>豊かな感性を培う 生命尊重の心をはぐくむ 公共心をはぐくむ</p> <p>支えてくれる家族への信頼 できる・役立つ喜びを実感</p>	<p>勤労観の基盤を形成</p> <p>豊かな感性・学ぶ意欲・自発性・行動力の向上</p> <p>人間としての基盤の形成を促す段階</p>	<p>全学年の全教科で育成する能力</p> <p>豊かな感性 自分の感覚を大切にしながら他者の感性にふれ、磨いていく。</p> <p>健康やかな身体と身体能力を高める実践的な態度 自分の身体を主体意識をもち、自己管理能力や運動技能を高めていく。</p> <p>論理的な思考力や適切な判断力 自分の考えをもち、他者に適切に伝えることができる。状況にふさわしい言動をとることができる人間形成能力・社会形成能力や課題対応能力を高めていく。</p> <p>全ての基盤になる国語力、言語感覚を高め、表現力を育成し、国語力の向上を図る。多様な表現力やコミュニケーション能力の育成がキャリア教育の基盤になる。</p>	<p>自分のことができる</p> <p>係活動の充実</p> <p>自分の内面と向き合い、道徳的価値に基づき生き方を考えるための核となる時間</p> <p>グループ活動の充実・自主性の高揚</p> <p>自分の得意なことを集団で生かそうとする</p> <p>リーダーとしての自主性を発揮</p>	<p>担任や養護教諭・少人数担当・生徒指導主任を中心とした生徒指導・生活指導・学習指導におけるカウンセリング</p>
	<p>「ピトープを見直そう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生命尊重。勤労体験。責任をもって生き物を育てる。 ●ピトープ作り名人に学ぶ。 <p>「レッツゴー！ 〇〇探検隊」野菜作り・冬の町探検・駅に行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町を支えているいろいろな人たちと出会う。 ●自分の住む町への愛着を高める。 <p>自分が暮らす町への愛着を深めていくポートフォリオ作成</p>	<p>生命尊重 名人との出会い 責任感</p> <p>町への愛着 いろいろな名人</p> <p>町に住むいろいろな働く人 公共心・社会性の向上</p>	<p>異学年地区別縦割り班活動で自立・責任意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己の役割意識を高め責任性を培うために、異学年グループで目標をたてて企画・準備・運営・実行 ●自然の中で体験を通して、五感を豊かに働かせる。 <p>自分のことをする</p> <p>できることを自分からする</p> <p>六年生を支え、適切に補助的な行動をする</p> <p>リーダーを自覚し、見通しをもって行動する</p>			
二年	<p>「わたしたちの町 西部に学ぼう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●〇〇〇に関する史跡めぐり。 ●子ども時代に塩作りには浜子として従事した校区のお年寄りに仕事への誇りを語っていただく。 <p>みんなのためになることをする気高い行為をテーマにしたポートフォリオ作成</p>	<p>「地域のボランティア活動に取り組もう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●〇〇公園を守るボランティアから、自分たちの町を自分たちの手で住みよくしようとする心を学ぶ。 ●公園の美化活動に取り組む。 	<p>異学年地区別縦割り班活動で自立・責任意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己の役割意識を高め責任性を培うために、異学年グループで目標をたてて企画・準備・運営・実行 ●自然の中で体験を通して、五感を豊かに働かせる。 <p>自分のことをする</p> <p>できることを自分からする</p> <p>六年生を支え、適切に補助的な行動をする</p> <p>リーダーを自覚し、見通しをもって行動する</p>			
三年	<p>「家族の仕事への思いを探ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族の仕事への思いと支え合う家族の絆の大切さに気付き、家族の一員である自分という自覚を高める。(低学年の学習の発展となる。) ●身の回りには様々な仕事が存在することに気付く。 <p>働く家族の姿に学び、様々な仕事の存在についてまとめたポートフォリオ作成</p>	<p>「地域の人たちと、ともに生きよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎月の会食サービスで、お年寄りと交流しサービスを受ける立場、支える立場の人の気持ちや思いに学ぶ。 ●自分とは異なる立場にある人の思いを探ろうとする気持ちをもつ。 ●人に喜ばれることが自分の幸せにつながることを体験する。 	<p>異学年地区別縦割り班活動で自立・責任意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己の役割意識を高め責任性を培うために、異学年グループで目標をたてて企画・準備・運営・実行 ●自然の中で体験を通して、五感を豊かに働かせる。 <p>自分のことをする</p> <p>できることを自分からする</p> <p>六年生を支え、適切に補助的な行動をする</p> <p>リーダーを自覚し、見通しをもって行動する</p>			
四年	<p>「働く人の思いや考えから学ぼう」</p> <p>ア 職場訪問 (仕事についての取材活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護タクシー、デイケアサービスに関わる人の思いに学ぶ。 ●興味や関心のある仕事について、苦勞や喜び、どうしてその仕事を選んだのかなど疑問に思ったことをインタビューする。 <p>イ 専門家の思いに学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仕事を極めたプロとしての思いを語っていただき、仕事に就くためにどのようなことが大切なのかを探る。 <p>ウ 自分の将来の夢を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分好きなことや得意なことを踏まえ、将来の夢を描いて実現に向けた現在の目標を設定する。 <p>将来の夢を描き、それをかなえる道筋を調べ資料を集めたポートフォリオ作成</p>	<p>「『愛のふれあい活動』を成功させよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の福祉事業「愛のふれあい活動」(独り暮らしのお年寄りを年末に訪問したり、手紙を書いたりする活動)に参加し、支え合う社会のよさに気付く。 	<p>異学年地区別縦割り班活動で自立・責任意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己の役割意識を高め責任性を培うために、異学年グループで目標をたてて企画・準備・運営・実行 ●自然の中で体験を通して、五感を豊かに働かせる。 <p>自分のことをする</p> <p>できることを自分からする</p> <p>六年生を支え、適切に補助的な行動をする</p> <p>リーダーを自覚し、見通しをもって行動する</p>			
五年	<p>「夢に向かって 前進」</p> <p>ア ジョブ・シャドウイング (年間2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の夢をかなえるために必要な力とは何なのかを探り、身に付けるために半日間の職場訪問をする。 <p>イ 自分の夢を語る発表会を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの学習を通して描いた自分の夢に向かってこれからどのようにしていくのかをまとめ、発表する。 <p>夢に向かって目標をもち、実践して学んだことをまとめたポートフォリオ作成</p>	<p>「ボランティアの心を広げよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の福祉事業「愛のふれあい活動」(独り暮らしのお年寄りを年末に訪問したり、手紙を書いたりする活動)に参加する。福祉活動を通して、地域社会の仕組みや携わる人々の思いに学ぶ。そして、できることから取り組んでいく。 	<p>異学年地区別縦割り班活動で自立・責任意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己の役割意識を高め責任性を培うために、異学年グループで目標をたてて企画・準備・運営・実行 ●自然の中で体験を通して、五感を豊かに働かせる。 <p>自分のことをする</p> <p>できることを自分からする</p> <p>六年生を支え、適切に補助的な行動をする</p> <p>リーダーを自覚し、見通しをもって行動する</p>			
六年	<p>「夢に向かって 前進」</p> <p>ア ジョブ・シャドウイング (年間2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の夢をかなえるために必要な力とは何なのかを探り、身に付けるために半日間の職場訪問をする。 <p>イ 自分の夢を語る発表会を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの学習を通して描いた自分の夢に向かってこれからどのようにしていくのかをまとめ、発表する。 <p>夢に向かって目標をもち、実践して学んだことをまとめたポートフォリオ作成</p>	<p>「ボランティアの心を広げよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の福祉事業「愛のふれあい活動」(独り暮らしのお年寄りを年末に訪問したり、手紙を書いたりする活動)に参加する。福祉活動を通して、地域社会の仕組みや携わる人々の思いに学ぶ。そして、できることから取り組んでいく。 	<p>異学年地区別縦割り班活動で自立・責任意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己の役割意識を高め責任性を培うために、異学年グループで目標をたてて企画・準備・運営・実行 ●自然の中で体験を通して、五感を豊かに働かせる。 <p>自分のことをする</p> <p>できることを自分からする</p> <p>六年生を支え、適切に補助的な行動をする</p> <p>リーダーを自覚し、見通しをもって行動する</p>			

(3) 成果

- 6年間をかけてじっくりとキャリア形成に取り組むことにより、各学年の発達の課題が明確になるとともに、一人一人の児童の実態に応じて多様なアプローチの仕方があることが分かり、様々な場面におけるキャリア教育の在り方を探ることができた。
- 保護者から学ぶ学習の場を繰り返し設定したことで、家庭で子どもの将来について話し合う習慣をつくり、親子共に家族の絆を強く実感することができた。その結果、保護者の学校に対する信頼を深めることができ、家庭との連携を強化することができた。
- 学校全体で取り組むことにより、一人一人の教員がキャリア教育について考える場をもつことができ、それぞれが自分の分掌を中心にしてキャリア教育を推進することが可能になった。その結果、学校組織の活性化を図ることができた。
- 現在の自分の目標を考える場を保障することで、児童の学ぶ目的意識を明確化することができた。それは学習の動機付けになり、学習意欲の向上につながった。
- キャリア教育の推進を通して職員間の共通理解を図り、PDCAサイクルへの意識が高まった。全国学力・学習状況調査結果や学校評価の分析においても有用であった。



特別支援教育でのキャリア教育

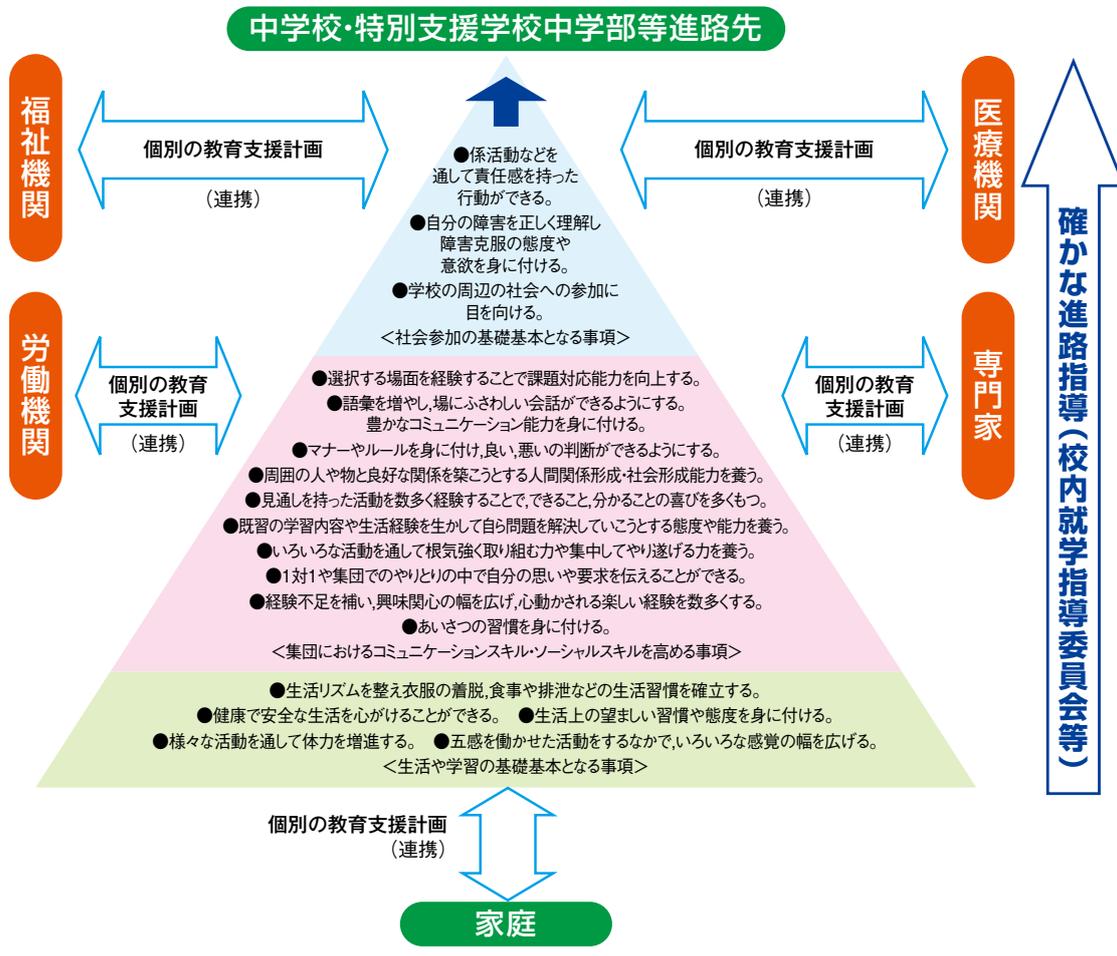
障害のある子どもの自立と社会参加を目指す特別支援教育においても、キャリア教育は重要な課題である。

特別支援教育では、一人一人の子どもの社会的な自立を目指して個別の教育支援計画に基づき保護者や医療機関、福祉機関等との連携を深めながら指導に当たることを目指している。次に示すのは、C小学校が考案した特別支援学級のキャリア教育構想図である。自立活動の指導を中心として、学校の教育活動全体を通して育てたい能力と、個々の子どもに応じた進路支援のための連携を含めて、指導の流れ図を作成し、特別な支援の流れを教員が共通理解するための資料としている。校内就学指導委員会は、特別支援教育担当者を中心にして、担任・養護教諭・管理職が子どものよさや可能性について多面的に情報交換を行う場である。

また、日頃から保護者に対する教育相談の窓口を設けておいたり、個人懇談会の日程に合わせて教育相談室を開設したりするなどして、通常の学級に在籍し特別な支援を必要とする児童にかかわれるようにしている。相談内容は、友人との人間関係や学習に関する事、家族関係など様々なことが予想されるが、その中から、例えば発達障害などの可能性があるケースを把握することができれば、発達障害者支援センター等の専門機関へ早期に相談をつなぐことが可能となる。

特別な支援を必要とする子どもにとって、キャリア発達の支援にはよりきめ細やかなものが必要となる。

将来の選択肢を様々な考えて、よりよい進路に進むことができるよう、学校全体で支援体制を整えていくことが大切である。



＜事例4＞ D教育センター
異校種間の学びのつながりを意識したキャリア教育

(1) D市のキャリア教育の構想

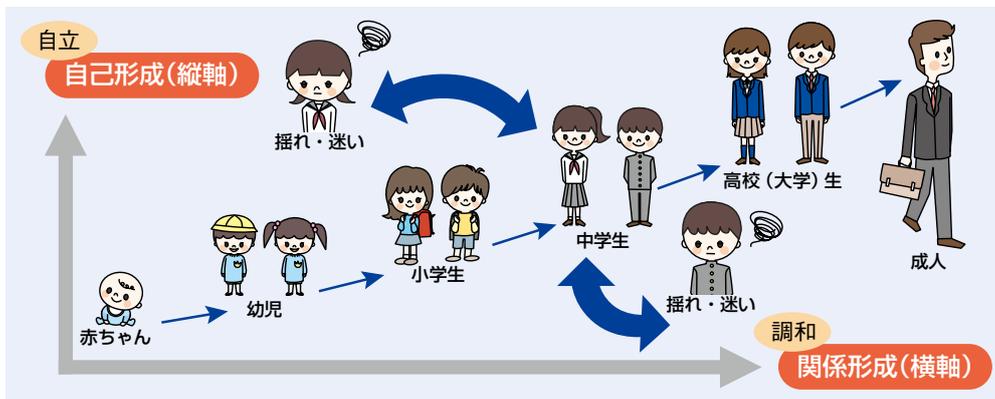
生涯を通してのキャリア形成を支援する視点から、D教育センターでは発達課題を二つの領域からとらえ、各学校段階のキャリア教育の内容を提示している。以下は、D教育センターが作成したガイドブックの一部を引用したものである。



どんな段階で、どんなことをするのか？

キャリア教育は発達の段階を考えて進めることが大切です。

【生涯学習におけるキャリア形成】



よりよく生きるために、小さい頃から生涯を通して、それぞれの段階で必要な課題（発達課題）があります。キャリア教育における発達課題を「自己形成」「関係形成」として、その内容を発達段階ごとにまとめると下表のようになります。

【自己形成と関係形成を育む内容】

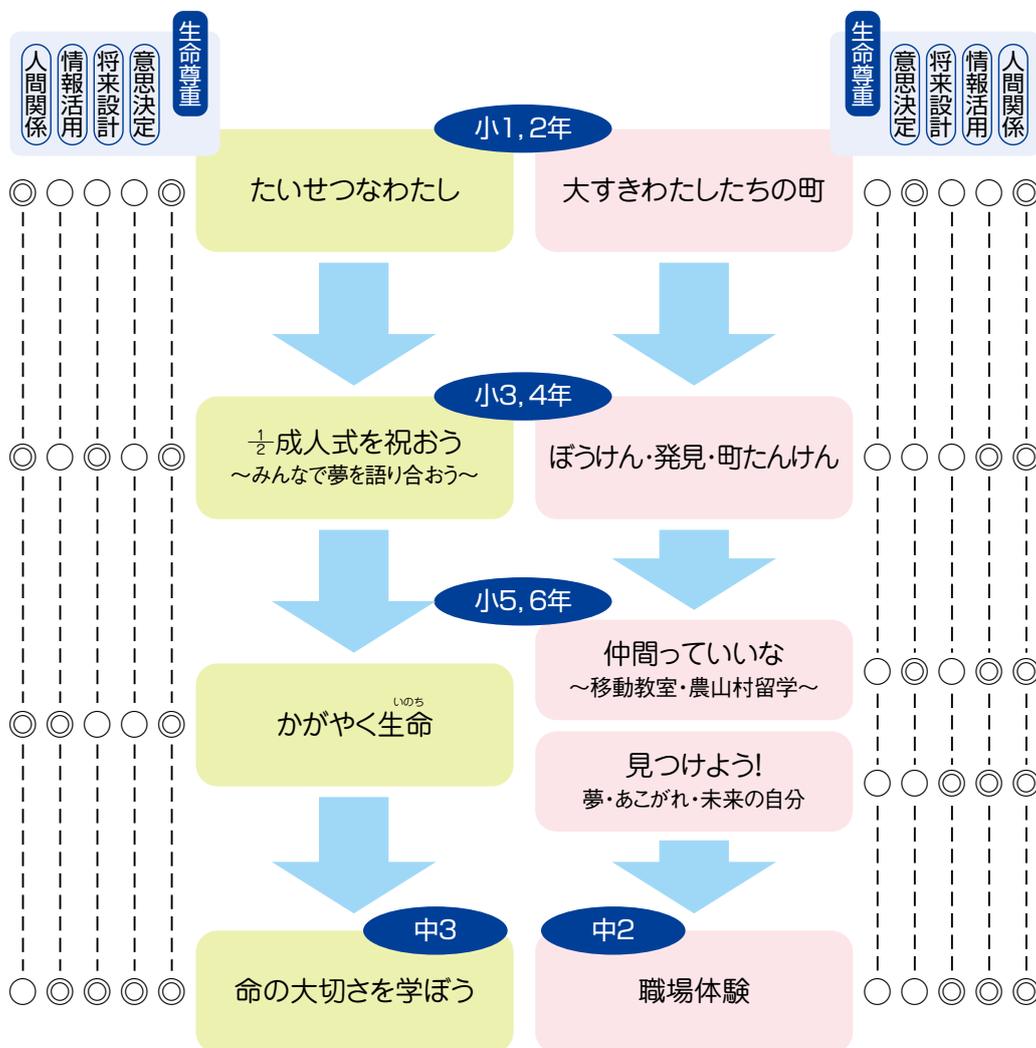
発達段階	小学校	中学校	高等学校
自己形成	<p>自分大好き (気づく)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己および他者への積極的関心の形成・発展 夢や希望、あこがれる自己のイメージの獲得 	<p>なりたい自分 (深める)</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 進路計画の立案と暫定的選択 	<p>なれる自分 (表す)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 将来設計の立案と社会的移行の準備
関係形成	<p>役割 (知る)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<p>将来 (選ぶ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味関心に基づく勤労観・職業観の形成 生き方や進路に関する現実的探索 	<p>ライフプラン (つなげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択基準としての勤労観・職業観の確立 進路の現実的準備と試行的参加

このように、キャリア教育はそれぞれの課題を意図的計画的に解決し、社会というフィールドの中でたくましく生きる力を育てていきます。

キャリア教育の学びのつながり(例)

Iテーマ『いのち』

IIテーマ『夢(職業)』



テーマ『いのち』『夢(職業)』は、今までの実践を基に大きく2つの内容で小・中学校のキャリア教育の学びをつないだ例です。
D市キャリア教育の参考プランとして提案します。

連携については既に2章でその有用性を述べているが、このように市がキャリア教育推進の指針を示すことで、それぞれの校種や異校種間の連携活動をスムーズに行うことができるようになる。子どもたちにとっても、上級学校を身近な将来の自分の姿としてとらえることができ、いわゆる小1プロブレム、中1ギャップなどを解消したり、交流活動を通して人間関係を形成する能力を高めることが可能である。

このような12年間を見通したキャリア教育を行うことで、ゆるやかに無理なくキャリア形成を支援することができるものとする。具体的な異校種間連携の事例について、次に示す。

①幼稚園・保育所・小学校の体験入学での連携

幼稚園・保育所・小学校の連携でよく見られるのは、就学前の幼稚園児たちの体験入学の場で1年生が年長者としての役割を果たす行事である。1年生は年下の友達を迎える立場になって、会の進行や会場準備、プレゼントづくりなどに取り組む。できることを果たそうとする活動を通して自己の役割意識を高め、4月からは新しい1年生にどのようにかかわっていくとよいのかを考えるきっかけとすることができる。

おそらく、参加者の中には1年生が昨年度までお世話になった幼稚園や保育所の教職員がいると思われるが、そういう立場の人に1年生のがんばりを認めてもらう場を設けたい。家族や現在の担任以外の人で、1年間の自分の成長やできるようになったことを褒めてもらえることは大変な達成感を味わわせてくれるものである。異校種間の職員が日頃から連携意識をもつことで、このようなちょっとしたタイミングを逃さずにかかわることが可能となる。

②小学校・中学校の連携

中学校では、5日間の職場体験活動に取り組む。将来教職を目指す生徒は小学校での体験活動を希望することが考えられる。そのような生徒には、できれば出身小学校での体験をさせたい。そして5日間の中で、生徒が現在のがんばっている様子を紹介できる場を設けたい。例えば、部活動の腕前を披露したり、中学校の学習内容を紹介したりなどである。多くの中学校には複数の小学校から進学すると思われる。新しい友達との学校生活など、身近な将来のモデルとも言える中学生にじかに紹介してもらうことで、高学年の児童にはガイダンス的な役割にすることができる。「中1ギャップ」対策としても有効であろう。

③中学校・高等学校の連携

高等学校説明会の一部を、高校生に担当させることが考えられる。高校生は自分の学校の伝統について見直したり、所属意識を再認識する機会にもなろう。校章や校旗のデザインの由来を調べたり、校訓を中学生に分かりやすい言葉に直して紹介したり、可能であれば事前に高校内でリハーサルをすることも有効である。

一方中学生には、高校生に質問をする場を与えたり、主体的に参加できるよう工夫が必要である。保護者も参加して、自分の進路を自分で考えるための情報収集に真剣に取り組ませる場の設定が大切である。

専門高校は、長期休業中に体験活動などのイベントを開催することが多い。文化祭や総合的な学習の時間の活用を通して、現在自分が取り組んでいることを見直したり、意義を考えたりすることで、自分の言動への責任意識を高めることができよう。

相手に分かりやすい説明の方法など、望ましいコミュニケーションの図り方を、連携という場を利用してはぐくんでいきたいものである。

4章では、172ページに異校種間での共同学習「3校交流集会」の事例を示している。

(2) 成果

- 教育センターなどの教育機関が中心となって学校種の接続に積極的にかかわることで、同じ中学校に進学する複数の小学校で行われるキャリア教育の内容の差を解消できる。
- 市全体としての取組が明確になることで、地域との連携においても受け入れ事業所の負担感の軽減やキャリア教育の目標の共通理解を得る面でメリットが大きい。学校にとっても、受け入れ事業所を探す苦労が軽減する。
- 成果を公表して企業などにキャリア教育の体験受け入れ意識を高めていくことで、学校と地域が強く連携したシステムを構築することが可能である。

※ 本例は、平成23年1月より前に作成されたものである。